

# 仮想空間「四季」を演出

メタバースなど三次元で構成された仮想空間での演出技術を競うデザインコンテストが27日、熊本市西区の崇城大であり、学生が独創的なアイデアやグラフィックを披露した。

先端技術を体験して習得し、社会的課題を解決できる人材を育成しようと、2021年に開設された同大I・O・T・A・Iセンターが昨年からは開いている。

コンテストには、同大情報学部1年生ら189人（28チーム）が参加。この日は、予選を通過した18チームが、天井と床以外の360度で仮想空間を映し出せるスタジオに「四季」をテーマ

## 崇城大デザインコンテスト

に約2カ月かけて制作した作品（2分間）を投影した。同大や熊本市、総務省などの審査員7人が、ストーリー性や音楽とのマッチングなどを評価し、上位7チームを表彰した。

学生らは環境問題や野良猫の視点などフレッシュな感性で四季を表現。未来の日本で松尾芭蕉が夏と冬の句を詠むストーリーで入賞したチームの鶴長将弦さん（18）は「温暖化が進めば春と秋がなくなる可能性があり、季語が必要な俳句も詠めなくなる。俳句と四季を通して社会問題を伝えたかった」と話した。

（前田晃志）